

独自に掲げる「海城知」を深め 唯一無二の進学校をめざす教育

1891年に創立した海軍予備校を前身とする海城中学高等学校。中高一貫の名門男子校として知られ、近年は国内の難関大学に限らず、海外大学への進学者も増加している。今回は、日本における国際バカロレア（IB）教育の第一人者として知られ、詩人としても活動する校長の大迫弘和先生に同校をめざす教育について伺った。

「海城学術顧問」では 各界のプロが多様な講演を実施

建学の精神に「国家・社会に有為な人材の育成」を掲げ、世界に通用する全人的な教育をめざしてきた海城中学高等学校。2023年度に大迫弘和先生が校長に就任して以来、「海城知」と呼ばれる総合的な知の形成と生徒への



「海城知」を高めるのに欠かせないKSプロジェクト。体験を伴う学びが生徒を大きく伸ばす

意識づけに注力している。大迫先生がいう「海城知」とは、「海城の教育でしか得られない知の総体」のこと。学力だけでなく、身体的・精神的な力や感性、他者への貢献など総合的な人間力を指している。

海城知を深化させるために、大迫先生が校長に着任後、ICT教育部を教員7名から成る規模に拡充し、AIや新技術を教育に活用する研究を積極的に進めている。さらに、海外大学進学相談室創設やスクールカウンセラーの常駐など、生徒の学びをサポートする専門的な体制を整えた。

また、大迫先生は同校を「唯一無二の進学校」にすることをめざしている。それは、偏差値や大学合格実績を高めることではない。たとえば、同校ではエクイティ（公平性）に基づき、それぞれの子どもの目標に沿った支援を行う教育を実践している。学習面でも、「富士山のような存在の最難関大学への合

格だけをめざすのではなく、八ヶ岳のように多様な山の頂をめざし、生徒それぞれが掲げる目標に向けて、一歩ずつ進むことを大切にしています」と大迫先生。これが海城の学びの姿勢なのである。

「唯一無二の進学校」をめざすための取り組みの一つが「海城学術顧問」だ。これは単発的な講演ではなく、複数年にわたって生徒と関わり、知的好奇心や社会的問題意識、芸術的感性を育むことを目的にした取り組みだ。最近では、元外交官の小和田恒氏が法学部や外交官をめざす高校生に対して講演を行った。学術顧問として、加藤登紀子氏や劇作家の平田オリザ氏をはじめ、8名が名を連ねている。

学術系オリンピックでは毎年入賞 近年はスポーツ系クラブも活発

理数系の国際大会や模擬国連での実績で知られる同校だが、近年は運動部の活躍も目立つ。サッカー部は、全国高校サッカーインターハイ予選では四連勝、バスケットボール部も近年、都大会で健闘している。大迫先生は、生徒たちの競技力の高さに加え、相手チームに敬意を払い、礼儀正しく振る舞う姿勢にも注目する。「サッカー部とバスケットボール部の試合を観戦しましたが、競技は違っても選手たちの協力の仕方やプレーの姿勢は海城生のチームとして共通していました。たとえば、相手が倒れたときに手を差し伸べるような場面です。こうした行動も、



近年は、スポーツ系クラブの活躍も素晴らしく、サッカー部は2年ぶりに都大会に進出

『海城知』に当たると思います」と述べている。また、地学や天文学・天体物理学、数学をはじめ、学術系オリンピックでも毎年多くのメダリストを輩出。チームは同年同士とは限らず、先輩・後輩が組むことも珍しくない。学校生活のなかで縦のつながりが自然に育まれ、先輩から後輩へと活動も受け継がれていくそう。また、生徒主体の学びの場である「KSプロジェクト」では、俳句甲子園やデザインコンペへの参加など、分野を問わず積極的に挑戦している。

こうした学業、スポーツ、課外活動など多様な活動を通して、進路を主体的につかむ力を身につけている海城生たち。6年間で「海城知」を自分のものにし、社会に羽ばたいていくことだろう。

■ SCHOOL DATA ■

東京都新宿区大久保
3-6-1
TEL : 03-3209-5880

